

- Q. 母村十津川村剣士を招いて剣道交流を
A. 従前の交流を側面から支援する
- Q. 町民の食育について
A. 学校教育を通じ、望ましい食習慣を育む
- Q. 人口減少社会に対応するプロジェクトチームを組織しては
A. 政策審議会等既存組織で対応する

教育長 十津川村剣道クラブと本町尚武会の交流親善試合は昭和35年に始まり、すでに50年を超えた交流となっている。この交流は5年に一度相互が行き来している民間レベル

質問 完成した武道場は十津川村と本町の木材を活用しつくられたもので改めて強い絆を象徴したものと言える。この施設を内外におおいにPRする観点からも毎年母村剣士を招聘し交流と双方の技量向上を目指すことを計画してはどうか。

また、武道場活用方策の考えをお伺いする。

母村十津川村剣士を招いて剣道交流を



後木 幸里 議員

教育長 近年における国民の食生活を巡る環境の変化に伴い、豊かな人間性を育むための食育を推進し、現在及び将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力ある社会の実現に寄与するとの考えで「食育基本法」が平成17年にできた。学校にあっては、食の自己管理能力や望ましい食習慣を身につけさせるべ

質問 今日、日本人の食の現状を思うと樂觀すべき状況にないと思えるが

町民の食育について

ルの交流であり、教育委員会としてはこれを尊重し、側面からその時々のできる支援を行っていききたい。

先の武道場落成記念式典には道内の剣道関係者多くにご臨席いただき、最先端の武道場を紹介できたと自負している。今後は、尚武会とも連携を強化し、児童生徒はもとより、一般利用も拡大できるように工夫していく。

空き家からの部材活用を

く、学校栄養教諭が中心となり授業や給食を通じ指導している。保護者には給食だよりを通じ食育の重要性を引き続き周知していく。

質問 解体する空き家からでる利用可能な部材は有効活用すべきと思えるが。

町長 不用となった空き家を取り壊す際、まだ活用が可能な部材が発生することはあり得ることである。単に廃棄物として処理することは「もったいない」の心や資源の再活用からも有意義である。しかし、解体撤去される家屋は個人資産であり、本人の考えを尊重すべきと思える。町は引き続き廃棄物の減量化に資する啓発を進め、状況に応じて廃棄物有効活用の助言等も行っていく。

人口減少社会への対応



青田 良一 議員

質問 人口減少により過疎地に合って自治体の存続を危ぶむ声も聞かれる、課題解決に向かつて職員によるプロジェクトチームを立ち上げては如何か。

町長 人口減少抑止に決定的手段は難しく、従前より、行政全般に亘る施策により人口減少を緩和することを目指している。なお、本町には政策審議会と政策研究会が設置されており、この組織を活用させ課題解決に努力する。